

おひなさま ぶっく★りすと

『和紙で折るおひなさま』

小林 一夫／著 プティック社

ひな人形の始まりは平安時代。和紙を折った紙ひなだったそうです。小さくて愛らしいのが「ひな」の意味。この本では、手のひらに乗るほどのやさしく折れるおひなさまや、「たとう」の中に仕込まれた小さな小さなおひなさまなど、気軽にプレゼントできそうなものばかり。子どもの成長を祈りながら折ってみてはいかがでしょうか。

『作って楽しむ お雛様とつるし飾り』

豊田 恵子ほか／監修 誠文堂新光社

和紙（折り紙）で作るお雛様は、柄の美しい和紙を使って、和紙ならではの色味と素材感で、着物の美しさを表現します。使う道具は、はさみだけ。男雛・女雛・官女・五人囃子・ぼんぼり・金屏風まで作ることができます。和紙以外にも、ちりめんや押し絵、つるし飾りのお雛様の作り方も紹介されていますので、この1冊でいろいろ楽しめます。

『節句のおりがみ』

丹羽 兎子／著 誠文堂新光社

節句と言うと3月3日の「桃の節句」と5月5日の「端午の節句」が有名ですが、1月7日の「人日の節句」（七草粥の日）、7月7日の「七夕の節句」、9月9日の「重陽の節句」（長寿を願い菊を浮かべた酒を飲む）五節句があります。その五節句で使える40点の飾りを紹介した本です。ひなまつりを終えたら、素敵な和紙の折り紙で、日本の年中行事を楽しんでみてはいかがでしょうか。

『また ひなまつり』

渡辺 一枝／著 集英社

著者が日々の暮らしの中から創造した、素朴で小さなおひな様たちを紹介。夫の椎名誠さんが砂漠でひろった貝殻を素材とした「楼蘭（ローラン）雛」、家族で遊んだ思い出の川原で拾った「石ころ雛」など。素敵なエッセイも添えられています。

長岡市内の図書館にある本のリストです。ご希望の際には各図書館でお申し付けください。